

## 210228八栗シオンキリスト教会礼拝宣教参考資料～キリスト教史近世③

### 1. 宗教改革急進派～再洗礼派

- ・国家と教会が結びつくことを妥協と見て批判したグループ。
- ・宗教改革急進派、再洗礼派という呼び名で知られている。
- ・カトリック、プロテスタント双方から迫害され排除された。
- ・再洗礼派の特徴

- ① 幼児洗礼の否定、成人洗礼
- ② 絶対平和主義
- ③ 教会と市民社会の違い

再洗礼派を通して考えさせられること

- ① 急進的改革はうまくいかないこと
- ② 宗教改革の負の側面

### 2. イングランドの宗教改革

#### ① イングランド国教会の形成

- ・イングランドではカトリックやプロテスタントのどちらかとは完全に割り切れない独自の形で教会の変化が進んでいった。
- ・イングランドの宗教改革は絶対主義王政形成過程の中で始まった。
- ・イングランドに宗教改革を導入したのは国王ヘンリー8世（1509-47）。
- ・元々は宗教改革に否定的だった。
- ・しかし後継者問題でキャサリン王妃と離婚を望んだが、ローマ教皇に認められず、ローマ教会から独立して自国の教会を設立することに決めた。
- ・ヘンリーはローマ教会への支持を反逆罪と定め、司教は国王自らが任命し、教皇に訴えることや教皇への上納金を禁止した。
- ・国王を教会の首長とし、それを否定した者は死刑にするという厳しい措置に出た。
- ・軍事費を捻出するためにすべての修道院を閉鎖して財産を没収した。
- ・ドイツのシュマルカルデン同盟（反ローマ、反カトリックの同盟）に加入するため、ルターの神学を取り入れた信仰簡条「10簡条」を定め、聖書主義、サクラメント論、信仰義認を受け入れた。
- ・しかしメアリー1世（位1533-58）は宗教改革を中止し、プロテスタントへの厳しい弾圧を行い、多くのプロテスタントが大陸へのがれた。
- ・彼らの多くはジュネーヴ（カルヴァンの宗教改革）で本場の改革を学び、後に帰国してピューリタン運動の指導者となっていった。
- ・エリザベス1世（位1558-1603）はカトリック、プロテスタント双方を満足させるために、両方の要素を取り入れた教会を形成した。
- ・礼拝様式はカトリックとし、教義はプロテスタントとした。これにより、プロテスタントとカトリックの両方の要素を取り入れた国教会が確立した。
- ・しかし、エリザベスの取り組みはカトリック、プロテスタント双方から激しい抵抗を受けた。

#### ② ピューリタン運動、諸教派の形成

- ・エリザベス時代になるとメアリー時代に大陸に亡命していた人々が帰国し、徹底的な改革を求めるようになった。

- 改革を求める人々を総括して「ピューリタン」と呼ばれた。
- 聖書的な信仰に立ち返ることによって教会を「清める」必要を強調したから。ピューリタンは purify (清める) から来ている。
- ピューリタンが国教会に要求したことの一つは長老制の導入。
- チャールズ1世 (位1625-49) は王権神授説に基づく国王の大権を主張し、議会を経ずに課税や貸付の強要を行い、専制政治を進めた。
- 国王と議会の対立が激化し、議員オリヴァー・クロムウェルはピューリタン農民から成る鉄騎隊を率いて議会軍の中心で戦い、議회를勝利に導いた。
- その結果、カトリック的な要素を排除して、長老主義的な教会のあり方を定めた。さらに「ウェストミンスター信仰告白」を作成し、カルヴィニズムに基づいた教理と長老制を定めた。
- その後、戦いを勝利に導いたクロムウェルが首相となった。
- 国教会の中には、長老派だけでなく、独立派、バプテスト派と呼ばれる立場の人々がいた。

長老派	独立派	バプテスト派
国家と教会の相互協力	神に召し出され、自発的な意思により集まった信仰者からなるのだから、政治的権力から自由であり、各教会は独自の教会形成を行う。	信仰に目覚めた個人が洗礼に与り、それによって教会というものは構成される。だから、教会というものは国家とは全く異なるものであり、自律した存在である。

### 3. 対抗宗教改革～カトリック教会の改革

#### ① トリエント公会議

プロテスタント	カトリック
聖書のみ	聖書+伝承
聖書原典 (ヘブル語、ギリシア語)	ラテン語のヴルガタ訳
解釈は万人	解釈は聖職者
義認=信仰	義認=神の恵み+人の行い
サクラメント= 洗礼、堅信、聖体、ゆるし、病者の塗油、叙階、結婚	サクラメント=洗礼、聖餐
パンとぶどう酒はキリストの体と血に変わらない	パンとぶどう酒はキリストの体と血に変わる
煉獄の否定	煉獄の肯定

#### ② 新しい修道会

##### 〈聖テレサ会〉

- 聖テレサによって創設された跣足カルメル会。
- 昔からの厳格な修道院を復活させようとした修道院
- テレサはスペインのカスティーリャ地方で生まれ、その後、受肉のカルメル女子修道会に入会した。
- しかし、彼女には安易な修道生活に満たされず、彼女は神秘的な体験が記された書物を読むようになる。
- 自らもそうした体験を重ね、自ら新しい女子修道院を設立した。

- その修道院はスペイン全土に広まり、サンダルを履いていたので、「跣足のカルメル会」として知られるようになった。
- その後、男子の修道会も誕生する。

#### 〈イエズス会〉

- スペインのバスク地方出身で軍人であったロヨラは、戦争での負傷を機に禁欲的な信仰生活をはじめ、その後、パリで大学の友人とともに禁欲的兄弟団を作った。
- これが教皇に承認され、清貧、純潔、従順の誓い、教皇への服従を課す修道会となる。
- イエズス会はローマ教会立て直しのために各地の伝道や学校設立に取り組み、南米や東洋に向けて海外伝道をはじめ、日本にも創立者の一人であるフランシスコ・ザビエルが訪れた。
- 宗教改革により神聖ローマ帝国の約半分を失ったローマ教会は、福音主義を壊滅させ、その地を取り戻す活動として、このイエズス会という新しい修道院を積極的に使っていた。
- ポルトガル、スペインの大航海時代（植民地形成時代）に合わせて、海外宣教を展開していく。宣教を目的としたところにイエズス会の新しさがあった。